

9月定例記者会見 会見録

令和7年(2025年)9月5日(金) 11:00~11:36 庁議室

質疑応答

■インターネット投票「みんなで創る森プロジェクト(あなたの投票で森が変わる)」の実施について

記者A

市内外問わずとあるが市外の方も投票できるのでしょうか。

市長

はい。そもそも森林バンク制度が市外の方も利用可能です。森林バンク制度があることによって、つくば市に魅力を感じてくれる人や関心を持ってくれる人が、もっと増えていくのではないかと考えていて、つくばであれば自分の森が持てるという可能性を秘めていますので、積極的に市外の方にも投票していただけるとありがたいと思っています。

記者A

今週末は知事選も控えています。つくば市では今後一般の選挙でもインターネット投票に取り組むことを目指していらっしゃると思います。今回のような取り組みやすいテーマでインターネット投票を実施して、将来的には実際の選挙でのインターネット投票を見据えているのでしょうか。

市長

もちろんそこを目指しています。こういう取り組み自体にももちろん意味があると思っていますし、市民や市外の方にとっても自分の意思を反映させる仕組みによって政策に反映させていくプロセスというのはとても価値があると思っています。色々な方がご心配されますが、きちんとした運用の積み重ねの中でインターネット投票に対する信頼を得ることがとても大事だと思っていますので、ぜひ選挙での実現に向けてチャレンジを続けていきたいと思っています。

記者A

これまでも、最も実現してほしい政策などをテーマにインターネット投票を実施してきたと思いますが、特に現時点でトラブルなどの発生はないのでしょうか。

市長

システム的なトラブルは一切ありません。課題として認識しているのは、マイナンバーカードのパスワードを覚えていない方からのお問い合わせが多いということがありますが、それ以外は投票自体もすごくシンプルですし、あまり技術的なハードルというのは高くないのではないかと考えています。

記者B

森林バンク制度とリンクしているということですが、森林バンク制度があるからこのプロジェクトが始まったのか、このプロジェクトありきで森林バンク制度も整備されたのか、こういった背景なのでしょうか。

市長

森林バンク制度が先です。市民に身近な森を使ってもらおうということを進めていて、担当者の頑張りにより森林の登録数は徐々に増え、利用したいという方も出てきています。今回のインターネット投票を通じてより関心を高めてもらい、森林バンク制度自体を知ってもらおうきっかけにしたいと思っています。森林バンクといってもイメージがつかない方もたくさんいらっしゃると思いますので、モデルハウスのようにモデル森林を整備して、こういう森の使い方があるということを実感していただけるような場所を作りたいと思っています。モデルハウスに行くと、何となくおうちが欲しくなるように、あるいはいろんなヒントが得られるように、この森林バンクのモデル森林に行くことによって、森林バンクを使ってみたいという方が増えていけばよいと思っています。

記者B

モデル森林を整備するのは市内一か所でしょうか。

経済部

基本的に森林バンクに登録のある森林を前提としており、最も多くの票を集めたテーマで一か所を来年度以降に整備します。投票していただいた方にも参加してもらいモデル森林を作っていくことを予定しています。

記者B

投票は10月13日までですが、テーマ決定や整備する場所の発表はどのようなスケジュールで進んでいくのでしょうか。

経済部

11月頃に最も多くの票を集めたテーマを決定し、広報つくばやホームページで公開します。2026年7月頃に、今回投票していただいた方を交えてワークショップという形で、テーマに沿った森林活用のアイデア出しを行っていきたいと思います。

市長

どれも素敵なテーマなので一つだけではもったいないですね。

経済部

今回は一か所を整備しますが、同時進行は難しいので整備自体は順次進めていこうと思います。

記者C

市外の方も投票できるのは初めてでしょうか。

政策イノベーション部

以前にもあります。現在のつくばスマートシティ社会実装トライアル支援事業の前身となるつくばSOCIETY5.0社会実装トライアル支援事業の中で、実際に社会実装を目指す取り組みを市が支援するというものがありました。どの取り組みを支援するかの選定を、2018年度から2020年度の3か年においてインターネット投票で行っておりました。その当時、つくスマアプリもございませんでしたので、仕組みは現在とは少し違いますが、インターネット投票で市外の方からの投票を受け付けた事例としては、過去にございました。

記者C

一つの自治体が他の自治体の住民のマイナンバーカードをチェックするというのはシステム上問題ないのでしょうか。

政策イノベーション部

問題ありません。我々は登録されている住所が市内か市外かしか見ておりません。市民に限定する場合は、住所がつくば市にない場合は投票できませんが、今回は住所を見ないというだけなので特段問題ありません。投票の結果に対しても、市民か市外の方かというのも紐づけられませんので、そこも分からないことになっています。

記者C

政策の中では差し障りがないものでインターネット投票を実施しているという印象を

受けています。もっと重要な案件もあると思いますが、インターネット投票を実施する基準というものは作っていないのでしょうか。また、今後作る予定はありますか。

市長

何が差し障りのないもので、何が重要なものかというのは、相当に主観によると思います。私どもにとっては、この森林バンクも非常に大事な事業ですし、市民の意見を出しやすいものを通じて、市民が主体的にまちづくりに参画できることを目指してテーマを選んでいきます。これまで行っているものもそうですし、これからもそういうテーマを選んでいきたいと思っています。

記者C

この政策をインターネット投票するかを決めたのは、最終的には市長ということですか。何か明文化した基準はないのでしょうか。

市長

基準はありません。今年度は3回実施する予定ですが、今回は担当課から提案が上がってきましたので、それについて私が最終的に了承しています。

記者D

森について関心を高めてもらうのも意義はあると思いますし、重要かどうかは主観にもよると思いますが、例えば予算の執行に結構強く影響があり、直接的に市民に還元されるような子育てや高齢者の政策に踏み込んでやっていくということはないのでしょうか。

市長

先ほどお答えしたように、市民が主体的に参画をしていくというテーマをいろいろ提案してもらい、精査してテーマとして選んでいますので、あらゆるものが可能性としてあります。今回は森林バンクの担当課がぜひこういうのをやりたいということでしたが、今年度実施する3回のうち残り2回はまだテーマが決まっていませんので、子育て支援や高齢者福祉をやらないということではありません。まだ事例が多くありませんので、どういうものがインターネット投票にそぐうのかというのをやりながら検証していつて、どういうプロセスがふさわしいかというのを考えていきます。

■つくばスポーツフェスティバル&つくパラ2025の開催について

記者D

このイベントでは様々な障害者向けのスポーツを実施するという事で、今年は東京デフリンピックも開催されますが、例えば、ろうあ者の方を対象としているようなスポーツもあるのでしょうか。

市民部

チラシの裏面に種目の記載がありますが、車いすバスケット体験コーナー、卓球バレー体験コーナー、ボッチャ体験、シッティングバレーなどを実施します。ろうあ者ということになりますと、ボッチャ体験などが対象の競技になるかと思います。

記者D

ボッチャはデフリンピックには含まれていますか。

市民部

含まれていないと思います。

市長

参考までに、デフリンピックの合宿をつくばでやりたいというようなチームがあったりしますので、そういうものの協力は市としても全面的に行います。

スポーツ振興課

デフリンピックの事前合宿につきましては、一応お話しはいただいておりますが、まだ正式な決定がわからない状況で調整中です。

■市内の県立高校について

記者C

県の高校審議会が7月に設置され、市民団体が要望書を出しましたが、つくば市としてはその審議会に対して何か対応する予定はありますか。また、県が審議会に示された資料には、2038年につくば市の中学卒業生数が今より740人増えるとあり、これは重大な問題だと思っておりますが、どう対応するのでしょうか。

市長

常々この件については県に働きかけを行っておりますし、知事要望などをしていきたいと思っています。高校生の通学時間などをまとめて、今精査しております。

記者C

今まで市長は、竹園高校の学級増設について、つくば市が負担してもいいからやってほしいと要望されてきたが、県は隣接の地域の子どもの数が減っているから、ドミノ式に隣接の高校へ行けばいいという考えだと思います。市議会も7月に要望したと思いますが、今のやり方だともう何をやってもダメという印象です。つくば市にとっては最大の政治課題で、次のステップに行く必要があると思いますが、そのあたりのお考えはいかがでしょうか。

市長

今、通学支援の申請を受け付けていますので、そこに詳細な通学時間などを書いてもらい、データを集めているところです。そのデータをもって、高校が足りているという県の考えに対して、市としての考えを具体的に示したいと思っています。以前から数字で要望していますが、より具体的なものを示していきたいと思っています。

記者C

これまでも4、5年要望をしてきたが、根本的な解決にはなっていないと思います。公立高校設置法には高校生が均等な機会を得なくてはならないとありますが、その法律に違反しているので、例えばつくば市が訴訟を起こしたり、または市立高校をつくったり、そういった次のステップも検討しなくてはいけない段階に来ているのではないかと思います。そのあたりはいかがでしょうか。

市長

全く動いていないということはないと思います。つくばサイエンス高校に普通科が新設されたり、牛久栄進高校に学級が増えたりしたことは、当然要望の成果だと思っていますし、県も要望を通じて問題意識を持ってくれていると私は思っています。行政というのは実際、要望を出したらすぐ通るような簡単な案件ばかりではありませんから、つくば市でも市民からの要望が数年かかって実現することがありますが、その積み重ねは非常に重要だと思っています。私は決して今やっていることが何も意味がないとは思いませんし、これまでのいくつかの変化というのは要望活動の成果だと思っています。県と常にキャッチボールしながら市としての考えをお返ししていくことが重要ですので、これからも継続していきたいと思っています。

記者D

通学時間の集計をしているということですが、これはいつ頃を目途に県へ出す予定でしょうか。例えば、知事への予算要望の時に出すのでしょうか。

市長

知事への予算要望では必ず出したいと思っています。申請期間が比較的長いので、途中のものにはなりますが取りまとめて分析をして、提案できる形にしてお持ちしたいと思っています。

記者D

途中のものは、10月、11月頃には出てくるのでしょうか。

市長

時期はいつとは言い切れませんが、全部を待っていても仕方ありませんので、できるだけ早くどこかのタイミングで出していきたいと思います。

■市長の海外出張について

記者C

今後の海外出張の予定を教えてください。

市長

グルノーブル市で開催予定のハイレベル・フォーラムに行く予定です。

記者C

3月、6月議会で海外出張の問題点を指摘されていましたが、今後、事前の市民への周知、海外出張の回数や金額を減らすなど改善することはあるのでしょうか。

市長

問題点とおっしゃっていますが、私より海外出張を詳細に報告している首長は、私が調べた限りではほぼいませんでした。もちろん報告書をきちんと作るということは重要ですし、当然作っていますが、それを市民に対してきちんと周知をしていくというのは、これからも継続して行いたいと思っています。議員も海外出張がダメというようなことをおっしゃっているのではなくて、海外出張で得た中身をどう説明するかだと思っています。私は実際に多くの具体的な成果として示していると思っています。先程の要望の話もそうですが、行ってすぐ成果になるような単純な話のものばかりではありませんので、そういったことを総合的に捉えていただく必要があると思っています。指摘された議員は私の海外出張について、主要な国際会議に出席したことは言及せずに、国際会議の合間に少しでも学びを得るために入れた行事のみピックアップして発言をされていたことが、とても印象に残っています。主要な国際会議の登壇があり、その期間を有効

に活用するために、海外の色々な事例を学んで、それを市に還元するという事なので、私は首長の海外出張が無駄とは全く考えておりませんし、海外に行かなければ得られない知見というのは非常にたくさんあると思います。それは国内でも同じことで、議員も当然国内の人に対していろいろ質問されていると思いますが、そういったものを否定して、全部インターネットで調べればよいというようなことであれば、非常に了見が狭いと感じます。

記者C

問題なのは、それを税金でやるかどうかです。国際会議があったからと言って、何でも出席するというのではなくて、税金でやっている以上はインターネットでも事足りる場合があればそれでいいのではないのでしょうか。

市長

インターネットで実際に登壇することもありますし、インターネットで事足りる場合があればいいと思います。ただ、現地に行って国際会議に出たことがあればわかると思いますが、国際会議というのは登壇だけが重要なわけではありません。その会議の合間に、どういうコミュニケーションをとって、どういうネットワークをつくり、どういう政策の学びを得るかということが国際会議のかなりの部分を占めていると言っても過言ではないと思っています。そうでなければ、例えば学者たちも国際会議と称してひとところに集まったりはしません。その間のオフィシャルではない部分も含めたコミュニケーションの価値というものが非常に大きいからです。ぜひ一度、国際会議に行って、取材していただければ、そこで何が起きているかというのをご理解いただけたと思いますので、私から強くお勧めをします。

■悠仁親王の成年式について

記者E

悠仁様が19歳の誕生日を迎えられ、成年式に臨まれるわけですが、筑波大学で学ばれているということで、市長のご所見あれば伺いたと思います。

市長

筑波大学で学ばれているということは、当然光栄なことですし、そこで悠仁様がいろいろな学びをされ、そしてご友人たちと楽しく過ごされる時間はとても貴重なものだと思いますので、ぜひ充実したものになればと願っています。みなさんの関心が高いことは理解しますが、ぜひメディアの皆様も温かく見守っていただけると、よりつくばでの生活が充実したものになるのではないかと考えています。

■茨城県知事選挙について

記者D

茨城県知事選挙に3人立候補されていて、市長は大井川候補の応援に行かれていますと思いますが、改めて大井川候補をご支援している理由やどういうところを評価しているのか教えてください。

市長

演説でも申し上げたとおり、参院選で外国人の問題というのが非常にフォーカスされ、同時に分断を生むような流れになってしまっていることに私は強い危惧を持っていますが、大井川知事ははっきりと、外国人も同じ県民としてどんどん活躍できるようにしていきたいと、分断に対して異議を唱えています。また、パートナーシップの仕組みを都道府県で初めて作ったことや、障害者の雇用についても触れており、そういったことの多様性について、茨城県は決して排除とか分断の方向に進まずに、これからも開かれた県であり続けるというような意思表示をしているという点において、私は応援をしています。

■自治体のNHK受信料未払いについて

記者F

全国で主にカーナビなどのNHKの受信料の未払いが発生しており、事業所ごとではなく端末ごとにかかるということで、避難所のテレビにもかかるというのはおかしいのではないかという意見があります。全国市長会でも議論されていますが、市長のお考えがあればお聞かせください。

市長

緊急事態が発生したら見る可能性はありますが、避難所やカーナビなどでは基本的にテレビは見ませんので、そういう部分で言えば、私としては自治体に対しては何らかの措置を当然していただきたいなとは思っています。つくば市では未払いはありませんでした。

終了